

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

学校名	佐賀市立開成小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・校内研究を柱として、授業づくりの工夫やマイノートの取組により自分の考えを表現する力の向上につながっており、成果である。 ・一方、生徒指導においては、共通理解の場を設け、チームで対応してきたものの、未だ課題を抱えている。
------------------	---

2 学校教育目標	豊かな人間力をそなえ、自ら学ぶたくましい子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	①学級経営の充実と生徒指導の徹底 ②特別支援教育の充実と学力向上の推進 ③心身の健康維持と自己有用感の醸成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

共通評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	B	・教職員間でマイプランを共有し、PDCAサイクルにもとづいた取り組みを推進する。	A	・学力向上対策シートのマイプランを意識した授業作りを行っている教師が90%で十分に意識はして行っている。さらに、内容をレベルアップして取り組めるように共通理解を図る。	A	・学力向上対策シートに示した授業づくりに関する内容を、全職員で共通理解することが児童のレベルアップにつながっている。 ・今後も、児童は、ノート等で日々の努力を見直し、職員は共通理解、共通実践を継続してほしい。	◎学力向上推進CO 研究主任		
	○校内研究の取り組みを柱とした主体的に学ぶ授業づくり	○単元テスト等で、思考・判断・表現75%以上をめざす。	B	・「児童生徒の学力向上対策 4つの取組」を踏まえ、「伝え合い」の向上を意識した授業づくりを行なう。	A	・算数の年間のテストでは、5年生、4年生が平均75点以下、他の学年が平均75点以上で、全校平均は79.2点であった。 ・コロナ禍でできる限りの伝え合い活動を推進し、研究授業で提案したり、研究会で伝え合いの在り方について協議したりして、伝え合いについて共通理解を図っている。	A	・校内研究の「伝え合い」が十分できるよう、コロナ禍の影響を最小限にとどめる対応、対策を実施していることが、主体的な学びにつながっている。 ・特定の学年における平均点の低さが気にかかる。学力向上のためには、自宅学習も大事である。	◎研究主任 学力向上推進CO		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケート「心の教育」に関する項目で、肯定的に答える児童75%以上。	B	・人権教室・人権学習会(平和・人権・道徳等の授業を大切にする)を推進すること。人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリースクール参観日において、ふれあい道徳の授業や人権学習等を感染予防に努めながら公開する。(地域連携)	A	・人権教室などの学習会では、真剣に学び、思いやる気持ちの大切さを意識することができた。しかし、一方で、人を傷つける言葉を意識的に使い、トラブルなども発生している。今後も、人権教室や授業の中で人権意識を高める指導を行い、お互い思いやる雰囲気を学校全体で高めていく。	A	・児童会運営の「ほかほかの実」の実践にたくさんの児童や教師が参加し、相手の良いところを見つけたり承認する雰囲気が高まった。 ・人権教室や学習会を今年11月のテーマで実施すること。人権についての共通理解や意識の向上が図られた。 ・ふれあい道徳の実施率は100%で、保護者にも道徳教育への理解を促すことができた。	A	・読み語りの際の児童の温かな反応に、目ごりの指導が感じられる。人権教室、ほかほかの木の実の取組が広がっている。 ・小学校時の「心の教育」は、授業同様重要。今後も、積極的に取り組んでほしい。できるならば、高学年、中学生と成長につれて、人をしるいわる言葉を発するよう期待する。	道徳教育担当 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	A	・「10月のわたし」(「ほとタイム」)の活用、(「気になる」)の情報共有による、いじめの未然防止と早期対応・再発防止に努める。 ・連携を交えた複数の職員による事実確認や指導を行う。	A	・「10月のわたし」(「ほとタイム」)を実施し、担任は個別に話を聞き、対応をすること。きき、気になる児童、いじめ事案に関しては、職員間で情報共有を行い、管理職も交え慎重に対応を行うことができた。担任以外の教員も関わって、児童の心のケアと温かいウラ作りに努めている。	A	・日々の忙しい業務であるが、子どもの困り感により寄り添い、各々の事案に丁寧に対応している。結果が、保護者の安心感につながっている。 ・いじめの発見が大事で、解決していくことは大人の役割であって、教師と児童との信頼関係構築に力を入れてほしい。	教育相談担当 生徒指導担当		
	◎児童の自己有用感を醸成し、夢や目標の実現に向けて、意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	○学校評価アンケートで「夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童75%以上	B	・キャリアパスポートを活用し、見通しをもっている」に肯定的な回答をした児童75%以上	A	・肯定的な回答をした児童は83%であった。しかし、中には、自分の将来を見据えていない児童もいるようであった。そのため、今後は、夢や目標を実現するために、自己の生き方や成長を具体的にイメージできるようにキャリアパスポートを活用していく。	A	・肯定的な回答をした児童は89%に増加した。学級における活用回数が増加や様々な職業について学んだことが、自己有用感や肯定的な回答につながった。キャリアパスポートを利用した学級始め、学期終わりのワークシートを職員に周知し、小中一貫した職業教育につなげる。	キャリア教育担当		
	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒60%以上	A	②22時まで寝る児童が80%以上	A	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	A	④「健康に食事は大切である」と考える児童は、97%に達したが、引き続き、給食地域の教室巡回や授業を通して、食に関する指導を行う。	A	・運動場に元気な声が聞こえるとうれしい。コロナ禍の中、運動量が減っているのも必然。自宅でできる筋トレ等教えてほしい。週末の宿題にマラソン、縄跳びなどを出すこともよい。 ・朝食喫食できていない児童が数人いることが気になる。就寝時刻にあわせて、保護者啓発が必要。学年別の集計結果を出し、傾向を見ながら、手立てを講じてほしい。また、「早寝・早起・早食」は、保護者の協力を得るような働きかけをしてほしい。 ・自分の体を作っている物は、食べ物であることを再認識させたり、食への感謝の気持ちを持たせたりすることは大切なことで、家庭でも意識づけたい。 ・開成生活改善推進協議会で子どもの料理教室参加の学校からの声掛けをお願いしたい。	体育主任・副主任 養護教諭・保健主事 食育担当・栄養教諭
	②「望ましい生活習慣の形成」	②22時まで寝る児童が80%以上	A	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	A	④「健康に食事は大切である」と考える児童は、97%に達したが、引き続き、給食地域の教室巡回や授業を通して、食に関する指導を行う。	A	・体力づくりに関するアンケートでは、80%以上の児童が積極的に運動に取り組んでいると回答したが、保護者へのアンケート「学校は子ども達の体力づくりをすすめている」の項目では19%と低い推移であった。スポーツ生活からの通知でも今年度の小学生の体力低下が著しいという結果が出ているため、今後は学校と各家庭が連携を図りながら児童の体力づくりを進めていく必要がある。 ・毎月初めに生活習慣チェック週間を設けたり、学級通信で呼びかけたりしたことで、就寝時間22時を92%の児童が達成した。今後も継続していく。 ・健康に食事は大切である」と考える児童は、97%に達したが、引き続き、給食地域の教室巡回や授業を通して、食に関する指導を行う。	A	・運動場に元気な声が聞こえるとうれしい。コロナ禍の中、運動量が減っているのも必然。自宅でできる筋トレ等教えてほしい。週末の宿題にマラソン、縄跳びなどを出すこともよい。 ・朝食喫食できていない児童が数人いることが気になる。就寝時刻にあわせて、保護者啓発が必要。学年別の集計結果を出し、傾向を見ながら、手立てを講じてほしい。また、「早寝・早起・早食」は、保護者の協力を得るような働きかけをしてほしい。 ・自分の体を作っている物は、食べ物であることを再認識させたり、食への感謝の気持ちを持たせたりすることは大切なことで、家庭でも意識づけたい。 ・開成生活改善推進協議会で子どもの料理教室参加の学校からの声掛けをお願いしたい。	体育主任・副主任 養護教諭・保健主事 食育担当・栄養教諭
●健康・体づくり	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	A	④「健康に食事は大切である」と考える児童は、97%に達したが、引き続き、給食地域の教室巡回や授業を通して、食に関する指導を行う。	A	④「健康に食事は大切である」と考える児童は、97%に達したが、引き続き、給食地域の教室巡回や授業を通して、食に関する指導を行う。	A	・運動場に元気な声が聞こえるとうれしい。コロナ禍の中、運動量が減っているのも必然。自宅でできる筋トレ等教えてほしい。週末の宿題にマラソン、縄跳びなどを出すこともよい。 ・朝食喫食できていない児童が数人いることが気になる。就寝時刻にあわせて、保護者啓発が必要。学年別の集計結果を出し、傾向を見ながら、手立てを講じてほしい。また、「早寝・早起・早食」は、保護者の協力を得るような働きかけをしてほしい。 ・自分の体を作っている物は、食べ物であることを再認識させたり、食への感謝の気持ちを持たせたりすることは大切なことで、家庭でも意識づけたい。 ・開成生活改善推進協議会で子どもの料理教室参加の学校からの声掛けをお願いしたい。	体育主任・副主任 養護教諭・保健主事 食育担当・栄養教諭		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限(1か月45時間)以上が年間6か月を超えないようにする。守ることができたと回答する職員は80%以上にする。	B	・定時退勤日を金曜日に設定する。 ・運動目標時刻19:00から逆算し、放課後の時間を効率的に使って業務にあたることが意識する。	B	・時間外在校目標時間を守ることができたと回答した職員は57%であった。 ・これは5か月のうち、45時間以上の月が3/5を超える職員が25%あり、意識向上を図りたい。	B	・時間外勤務時間の削減に努めた職員の割合は69%であった。 ・19:00までに退勤する職員が増え、全体的な時間外勤務は減りつつある。	B	・教職員が心身ともに健康であることが一番大事。コロナ禍の中、普段以上の業務により多忙となっている中で、教育の質を落とさず、時間外を削減することは難しい。教師間の連携、ボランティアの活用、家庭への協力やうながし、児童と向き合う時間の確保をお願いしたい。	教頭
	○ICT利活用、行事、会議の精選	○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし、遵守する。 ○各部署から1つ以上の改善案を提言する。	B	・事前資料配付、電子掲示板等を活用し、提案の簡略化を図る。 ・3部会で削減の視点で話し合い、「例年通り」を改善する。	B	・電子掲示板の活用で資料印刷や配付作業の時間が削減できた。 ・部会や学年チーム発信の業務削減に関しては、周知や具体例の紹介等を強化していきたい。	B	・74%の職員が効率的な業務を意識して個人の業務を行うことができています。 ・それぞれの分掌事務から改善案を提言することにはまだ課題が見られる。	B	・職員の業務時間が削減されるようなICT活用をしてほしい。	教頭

本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導と学級経営	○凡事徹底による規律ある生徒指導の確立と支持的風土のある学級づくり	○授業開始時に着席して、学習道具の準備ができている児童90%以上をめざす。 ○「開成スタイル」を実行していると答える児童75%以上をめざす。	・「開成スタイル」を提示し、全職員共通理解のもと、具体的な行動目標を挙げ、凡事徹底を図る。 ・「友達」「職員」「家族」との和を深める。	B	・「開成スタイル」を守って生活している児童は88%、呼びかけ凡事徹底めた教職員は84%であった。しかし、休み時間と授業との切り替えに課題が見られたため、今後引き続き指導の必要がある。 ・ほかほか言葉を毎日使っている児童は85%であり、3つの輪(心)を心がけているといえる。しかし、心ない言葉も見られるため、時と場合をわきまえた言動を呼びかけていく。	B	・「開成スタイル」を守って生活している児童は87%、呼びかけ凡事徹底に努めた教職員は82%であった。「開成スタイル」を中心に、凡事徹底を図ることができてきている。 ・ほかほか言葉を毎日使っている児童は86%、思いやりのある言葉かけを行っててる教職員は93%であり、3つの輪(心)を心がけているといえる。	B	・児童がアンケート記入し、自分の在り方を反省するよい機会である。職員は、意識的に言い換えることが大事である。 ・学校で発信していることも地域に響くまでできない児童も多い。できている児童、そうでない児童の二極化も激しいため、フォロー体制が必要である。	こころ部 生徒指導担当
○特別支援教育の充実	○特別支援学級における効果的な指導や通常学級在籍で個別支援を要する児童への支援	○意欲的に学習をすることができたかどうかを児童に4件法で自己評価させ、3.0を目指す。1単位時間や単元等で自己評価させることで、実態を確認する。	・主に国語科と算数科において、意欲的に学習できるように、個々の児童の特性に合わせて支援する。特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用する。	B	・児童の特性に合わせて学習の形態や過程を再考し、支援することができている。特別支援学級の自己評価は平均3.0より高い。通常学級においても計画的に支援を行うとしている。	B	・児童の特性に合わせて教員・ICTソフト等の選択をしたり、全教職員で支援できるように授業公開時間を設けたことなどで、さらに校域での支援が手厚なっている。児童の授業に対する自己評価も平均3.0より高い。	A	・粘り強い指導と教材の工夫等、工夫が見られる。一人一人に寄り添った指導がなされている。さらなる支援体制の強化を希望してほしい。	まなび部 特別支援CO
○地域連携教育の発展	○地域のひと・もの・ことを取り込んだ教育課程とふるさとのおよそを実感する教育の推進	○学校評価アンケートで、「学校や地域のおよそが分かる」と答える児童70%以上をめざす。	・学校通信、学校便り、メール配信、HP掲載等により、情報発信を積極的に行う。 ・地域との連携により、新学習指導要領に沿った教育活動を推進する。	B	・ボランティアによる見守りや気軽に挨拶してくれる地域の方の温かき声を実感している児童は多い。HPについては、学校便りや保健便り、給食便り、頻繁に更新されているものの、学年のページについては、そうではない。今後、学年、学級の様子を伝えるHP更新を呼びかけていく。	A	・学校や地域のおよそが分かる回答する75%であり、地域のおよそを表現する言葉から、地域の方の心も伝わっている。地域連携は深まっている。HP担当者から、学校の内情発信や呼びかけが、学級によりばらつきがある。	B	・児童の記述に、「地域の方が見守ってくれる」や「さいい」等あり、うれしく思う。今後、地域の行事、ボランティア活動に参加し、郷土愛を育んでほしい。 ・学校発信のHPで、学校の教育活動をもっとPRしてほしい。	主幹・教務

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	①「学級経営の充実」については、一定の成果が見られる。「生徒指導の徹底」については、「開成スタイル」を児童に浸透させ、地域の力を教育活動にも効果的に取り入れる。 ②「特別支援教育の充実と学力向上の推進」については、一定の成果が見られる。今後も、全職員で共通理解、共通実践を継続するほか、学力の二極化への手立てとして基礎・基本の定着を図る。 ③「心身の健康維持」については、保護者への啓発を図る。「自己有用感の醸成」については、現在の学びが将来につながることを意識させるよう、教育課程の工夫・改善を図る。
----------------------------	--